



本社／神戸市長田区東尻池町7丁目9番17号
〒653-0022 TEL (078) 651-8551 (代) FAX (078) 651-8556
URL / <http://www.yama1.ne.jp>

加古川営業所	TEL (079) 421-7080 (代)	FAX (079) 421-7082
西宮営業所	TEL (078) 991-3661 (代)	FAX (078) 991-3660
神田営業所	TEL (079) 562-7851 (代)	FAX (079) 562-7850
姫路営業所	TEL (079) 235-5061 (代)	FAX (079) 235-7515
神戶北営業所	TEL (078) 995-4061 (代)	FAX (078) 995-4060
岐阜北営業所	TEL (058) 383-3361 (代)	FAX (058) 383-3365
名古屋営業所	TEL (072) 430-6670 (代)	FAX (072) 430-6672
名古屋営業所	TEL (052) 619-6710 (代)	FAX (052) 619-6715
滋賀営業所	TEL (077) 561-5520 (代)	FAX (077) 561-5521
大阪営業所	TEL (0798) 30-6280 (代)	FAX (0798) 30-6281

mini Interview

松浦機械製作所MAM72-35Vを前に田中社長(後列右から3人目) 田中専務(後列右から4人目)とヤマイチ・山内智博社長(後列・左から2人目)と従業員の皆さん



田中鉄工所 代表取締役社長 田中 祥靖氏

——自動化に積極的に取り組まれていますね。
変種変量生産に取り組むため、森精機や松浦機械製作所の32面や40面パレットを持つ5軸MCを多数導入したことにより、量産品はもちろんのこと、一個だけの試作品から1年に一個の部品でも即座に対応することが可能です。さらに現在、材料投入から搬出までをロボットで実施し、24時間稼働を越え、理論上は無限に稼働し続けるシステムの検証実験を川崎重工様と協力して始める予定です。
——最新の設備を積極的に導入してきたことが成長につながったのでしょうか？
機械はあくまで機械で、同じものを導入できる企業は他にもあります。弊社の強みは人で、機械

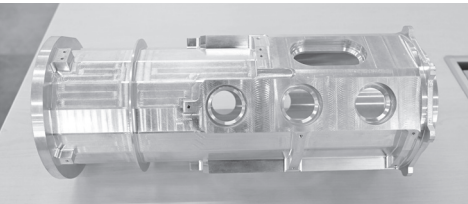
——自動化に積極的に取り組むの持つポテンシャルを100%まで引き出せるような使い方ができていることです。
——良い人材を集めることの難しさは？
女性が働きやすい環境を整えることが重要です。新工場では、掃除しやすい動線、ミストを除去する環境整備、食堂やトイレにもこだわりました。現在は従業員の半分が女性で、多くは手作業の仕上げ加工や検査を担うベトナムの人達です。また、新工場移転を見据え、工場から徒歩5分のところに寮を作り、一人一部屋ずつ提供しました。このようにしっかりと生活環境を整備したことにより、外国人の人達も仕事に対して前向きに取り組んでもらえています。



工場内にずらりと並ぶ工作機械

14台の立形5軸マシニングセンタ(以下、MC)、6台の横形MCによる独自のフレキシブル生産システムを確立し、常時700面のパレットマガジンをコントロールすることにより24時間無人運転を実現している田中鉄工所。「パレットマガジンを『お客様の在庫センター』にしたい」という最新鋭の新本社工場が、昨年12月に神戸市伊川谷に竣工しました。阪神淡路大震災

で全焼しながらも、遊休機3台を借りて神戸市須磨区の仮工場で操業を再開してから30年。田中鉄工所は、まさにフェニックスのように力強く羽ばたいています。
田中鉄工所は1938年6月に創業。ISO14001、ISO9001そして「神戸発・優れた技術」認定を取得し、産業用ロボット(特にウェハー搬送)や医療機器などの精密加工を得意としています。同社の技術力を特に有名にしたのは、スペースシャトルに乗せる鰐を入れた水槽の製造で



スペースシャトルに載せる鰐を入れるための水槽

■A55が天井を支え、命を救った
古い工場は倒壊、全焼しましたが、驚くべきことに、購入したばかりのA55が天井を支えました。1994年には牧野フライス製作所のマシニングセンタA55などを新たに購入しましたが、それから半年も経たずにあの震災が神戸を襲います。

たが、田中祥靖社長は「一枚ほどの大きさの図面は非常に難解で、プログラムだけで何日もかかりました。極めて薄い一体構造を、5軸機も三次元測定機もない時代でしたので大変苦労しました」と当時を振り返ります。これをきつかに、精密加工業者が少ない神戸で存在感を増し、仕事も順調に増えていきました。
1994年には牧野フライス製作所のマシニングセンタA55などを新たに購入しましたが、それから半年も経たずにあの震災が神戸を襲います。
井を支えました。田中社長は「そのおかげで、工場の二階に住んでいた親父とお袋の命が助かりました」と話します。
近所の人々には一旦解散を告げましたが、地震の1週間後には工場のワンフロアを間借りして操業を再開しました。全焼した工場で焼け残ったA55の残骸がいかに仮工場の連絡先を掲げて再起の旗を立てたのです。「地震の次の日には、取引先に遊休機を貸してほしいと頼みに行き、3台の工作機械を借りることができ、1週間後には加工を始めることができました」と田中社長。「そのことがニュースで取り上げられ、翌日には川崎重工やシスメックスをはじめ多くの人達から励ましの電話をたくさんいただきました。本当に嬉しかったです。その後も継続して仕事をいただきました。しかしながら機械が3台しかなかったことで、毎日徹夜で加工しました」と当時を振り返ります。
何とか1995年7月には長田区に戻り、その後、兵庫区の駅前通りに移転。そして昨年12月、最新工場を竣工させました。
田中社長は少し照れながら、「頑張ってくれている社員のため、社員の家族の生活を守るため、と真っ直ぐにやっていたら、なんとなく運が寄ってきて、たくさんの良い社員に恵まれ、新工場竣工までこぎつけることができました」と笑顔を見せました。